

みんなのかんきょう

第25号 平成13年1月発行



【主な内容】

/// ふるさとの環境自慢 ///
 福井市次郎丸町「岡の泉」
 /// ★特集★ ///
 新地球温暖化を考える(3)
 /// リポート ///
 北欧の環境・エネルギー事情
 /// 企業研修会報告 ///
 「これからのリスクコミュニケーション」
 /// トピックス ///
 ふくい地球温暖化防止フォーラム
 2000

表紙写真／九頭竜川
 (撮影／坪内 彰)

ふるさとの環境自慢 「岡の泉」 (福井市次郎丸町)



大野街道と呼ばれる国道158号線を福井市内から大野方面へと向かう。福井の市街地を10分ほど走り、北陸自動車道の下を抜けてしばらくすると荒木新保の交差点。左折して広域農道に入り、駐在所の交差点を通りすぎ、一般県道篠尾・出作線に入る。そして、1番最初の交差点を右に曲がる。岡西谷町という小さな青い看板が目印だ。岡西谷町を抜け、次郎丸町に入る。二股になっている道を右に進む。ほどなく、集落の中ほどの道路脇右手にぽっかりと穴があいたように、木々に囲まれた「岡の泉」が現れる。

以前紹介した「亭の水」とは、ちょうど山を1つ挟んだところだ。周囲は、ここ数日間降り続いた雪が積もったままであるが、岡の泉の中だけは、春を迎える準備をしているかのようにも感じられる。

池の中央、竹で組まれた囲いの中は、水が湧き出ているところ。

足を踏み外して池に落ちないよう、沢とび石を慎重に中央まで進み、竹組みの中の石の枡形を覗きこむ。枡形の一部が少し切れこんだところから水が流れ出し、確かにここから水が湧き出ていることがわかる。柄杓で水を飲んでみると、まわりの雪景色に反して、水は驚くほど暖かく、口当たりがよい。

少し大袈裟かもしれないが、もうすぐこの泉の底から、春が湧き出してくると思わせるような感じだった。岡の泉は、文明13年(1480年)頃、朝倉氏2代の氏景が吉備神社を建立した際に、その手水として使用したと伝えられている古い泉。

また、近くには朝倉氏3代の真景が建立した西光寺の跡がある。この寺の真盛上人の木像は、上人が岡の泉に自分の姿を写して彫ったものと伝えられていることから、別名「姿見の池」とも呼ばれているそうだ。

積雪が邪魔をして、残念ながら西光寺跡にはたどり着けなかった。現在、泉は次郎丸町の人々の飲料水として親しまれているだけでなく、かんがい用水としても利用されているとのことだ。

帰りは、国道158号線の南の堤防沿いの道を、足羽川を見下ろしながらゆっくりと戻った。河川敷は雪にすっぽりと覆われて、一面銀世界の中、足羽川がゆったりと流れている。マガモであろうか、水辺に群れるさまが、遠くから眺められた。冬将軍が去って、雪も一段落した1日。なんとなくほっとする冬のひとときだった。



★ふるさとの環境自慢募集中!!★
 皆さんの故郷自慢で1ページを飾りませんか。1000字程度原稿に地図・写真を添付して応募してください。場所の紹介だけでも結構です。採用された方には記念品をお送りします。

地球温暖化を考える(3)

この冬、福井市内は15年ぶりの大雪で、交通機関等は大混乱に陥った。それでも、サンパチ(38)、ゴーロク(56)と呼ばれた豪雪には及ばない。

1997年12月、気候変動に関する国際連合枠組条約第3回締約国会議(COP3)が京都で開催された。この会議では、各国ごとの温室効果ガスの削減目標や目標達成のための国際的な仕組みなどを定めた、京都議定書が採択された。

これを受けて、国内では平成10年10月には「地球温暖化対策の推進に関する法律」が制定されている。

◆地球温暖化をめぐる状況の変化

あれから3年。2000年11月、オランダのハーグでは第六回締約国会議(COP6)が開かれ、2002年の京都議定書発効を目指して、詳細なルールを決めようとした。

京都協議会のポイント

対象ガス	二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、HFC、PFC、SF6
基準年	1990年(HFC、PFC、SF6については1995年とできる)
最初の目標期間	2008年から2012年(この5年間の合計排出量を1990年の5倍量に比べ削減)
削減目標	① 先進工業国全体の対象ガスの人為的な総排出量を、最初の目標期間中に基準年に比べて、これらの国々の全体で少なくとも5%削減する。② 先進工業国ごとの目標数値を個別に定めた。
吸収源の取扱い	限定的な活動(1990年以降の新規の植林、再植林および森林減少)により増減した温室効果ガスの吸収量を排出量から差し引く。より広い範囲の活動を考慮する場合の範囲については国際的に検討中。
目標を超えた削減量の繰り返し(バンキング)	目標期間中の割当量に比べて排出量が下回った場合には、その差(過剰削減量)、次期以降の目標期間中に必要な削減量に加えることができる。
複数の国の共同達成(バブル)	バブルに参加する関係国の総排出量が各国の割当量の合計量を下回れば、目標を達成したとみなされる。EUが活用する見込み。

日本の温室効果ガス削減目標：1990年比6%削減

ところが、先進各国間の利害対立に開発途上国の思惑が複雑に絡み、合意できずに会議は終了した。

なぜ、先進国間で利害が対立したのか。現在の生活、特に先進国の便利で豊かな生活は、石油によって成り立っている。工場では石油から作られたエネルギーで、石油を加工した製品を作る。私たちは石油から得た燃料で車を走らせ、石油から得たエネルギーで灯りや暖をとり、石油から作られた製品を利用する。

従って、石油の消費の抑制、すなわち二酸化炭素の排出量の削減は、各国の消費活動・経済活動を停滞させることに結びつきかねないとの主張がそれなりの力を持つ。

では、温暖化の危機は差し迫った課題ではないのか？日常生活の中からは自覚しにくい、温暖化は確実に進行している。過去100年間で、地球全体の平均気温の上昇は約0.6℃、海水面の上昇は10～25センチメートル。福井県では1897年から1995年までの約100年間で平均気温は約1.1℃上昇している。

その程度ならば、許容範囲と思われるかもしれないが、これは主に20世紀後半に引き起こされたものであり、そのスピードは加速している。

先日、「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)は第3次評価報告書(案)を発表し、1990年から2100年までの間に地球の気温は最大5.8℃、海面は最大88センチメートル上昇すると予測した。

これは、1995年の第2次報告書の気温上昇1～3.5℃を上回るものであり、温暖化のスピードが早まっていることを意味している。こうしたこともあり、今年5月にCOP6の再会合が開かれることが決まっており、早期の合意成立が期待される。

◆温暖化に対する人々の意識

地球温暖化問題への関心 地球環境保全の必要性 地球温暖化防止の主体



平成11年10～11月に県が実施したアンケートでは、地球温暖化に関心があると答えたのは一般県民(有効回答数596)では87.7%、学生(同948)は66.6%。

地球環境保全の必要性では、地球環境を守ることが最も大切とする人の割合が、一般県民より学生の方で高い半面、現在の生活を変えない範囲

で、地球環境を守る必要があるとする人の割合も学生の方が高く、若い世代に現在の便利で豊かな生活が当たり前とする傾向がうかがえる。

地球温暖化防止の主体では、住民・企業・行政が協力して行くと回答した人の割合に、一般県民と学生では大きな差があり、学生層には温暖化の当事者意識が薄いと見えようか。

※一般県民:20歳以上の県民、学生:中学生・高校生

◆福井県の地球温暖化対策



地域レベルでの温暖化対策はどうなっているのだろうか。

県では、昨年3月に「福井県地球温暖化対策地域推進計画」を策定した。

県内の1990年度の温室効果ガスの排出量は、CO2換算で883万1千トンで、このまま対策を講じない場合は、2010年度には1119万5千トン(1990年度比26.8%増)にまで増加すると予測されている。

計画では、2010年度における温室効果ガスの排出量を1990年度比で3%削減することを目標としているが、わずか3%と考へてはいけない。1997年度には、1990年度に比べ、既に8.3%も増加しており、実質的には10数%の削減が必要となる。

ここで、温室効果ガスの90%以上を占める二酸化炭素の部門別排出量について、1990年度と1997年度を比較すると運輸部門と民生部門の割合が増加していることがわかる。

その割合は減少しつつあるとはいえ、全体排出量の約2分の1を占める産業部門等の一層の削減努力も必要であるが、さらに重要なのは、現在増え続けている我々の日常生活から排出される二酸化炭素を減らすことである。

計画では、民生部門において68.9万トンもの二酸化炭素を削減(1990年度比17%減)することを目標としているが、これを達成するためには県民が様々なエコライフに取り組む必要がある。

この中の一つ、例えばテレビを見る時間を1日当たり1時間減らすと、二酸化炭素の排出量は年間で約17キログラム、電気代は約1260円の節約となる。(電気代に関しては、本紙21号で紹介した。)

また、県では、温室効果ガスの削減目標を達成するための具体的な取組みの一環として、昨年7月に、アースサポーター(地球温暖化防止推進員)101名を委嘱した。

サポーターは、日常生活から排出される二酸化炭素量を把握し、削減へ向けた取組みを実行するため、まず、地域の住民等にも呼びかけて、エコチャレンジと題した環境家計簿に3ヶ月間取り組んだ。

こうしたサポーターの活動を通じて、県民の間に温暖化に対する意識、そして具体的な行動が広がっていくことを期待している。

さらに、事業者の具体的な取組みを働きかけるとともに、県民・事業者・行政の各主体の連携した取組みを推進していくこととしている。



◆地球温暖化防止フォーラム

昨年12月9日・10日、『ふくい地球温暖化防止フォーラム2000』が開催され、地球温暖化に関する講演会やシンポジウム・子供向けのミュージカルなどが行われた。

お天気キャスターの森田正光氏の記念講演の後、シンポジウムでは、県立大学の川平浩二教授のコーディネートのもと各界から参加したパネリストが自分の仕事や生活の中での経験に基づいた意見を交換した。

ここで、パネルディスカッションでの意見の一部を紹介する。

- ・日常生活から排出される二酸化炭素の半分が自家用車からであることに環境家計簿をつけてはじめて気づいた
 - ・気候の変化に対しては、人間よりも植物や昆虫の方が敏感である
 - ・他部門と比べ、家庭でのエネルギー消費の伸びが著しい
 - ・福井は四方を山と海に囲まれた閉鎖的な環境であるため、福井県の環境を良くするのも悪くするのも県民の姿勢如何である
 - ・温暖化対策を進めるには、消費者の意識が最も重要である
- そして最後に、みんなで温暖化問題について考え、知恵を出し合うことが、問題解決への近道であることが確認された。

◆我々に求められていること

地球温暖化問題は、遠い国のはなしでも、遠い未来のはなしでもない。
その被害や影響を実感できないからといって、自分が加害者の一員であると捉えられないというのは、もはや許されなくなっている。
自分たちの便利で豊かな生活が、いかに世界の人々の生活を脅かしているか、動物や植物の生態系を破壊しつつあるか、自覚しなければならない。
また、科学技術の進歩が地球温暖化をもたらしたからといって、科学技術にその解決をゆだねることは難しい。
しかし、消費者には消費者なりの貢献の仕方がある。自分の生活の中から、無駄をなくし、資源を有効に使うことは、わたしたちでも十分取り組めることだ。
「こんなちっぽけなことで地球温暖化なんか防げない」と行動を起こす前に投げ出してしまっは、何も解決しない。
たとえ小さなことでも、あきらめないで続けていくこと、みんなが取り組むことで、大きな力になっていくことを今一度思い起こして欲しい。

※気候変動に関する政府間パネル(IPCC)

1988年に地球温暖化を科学的に解明するため国連環境計画などが設立。90年に第1次、95年に第2次の報告書をまとめ、公表している。

レポート

北欧の環境・エネルギー事情

[京都議定書における北欧4
カ国の温暖化ガスの削減目標]

国名	削減目標
日本	-6%
ノルウェー	+1%
デンマーク	EC * -21%
スウェーデン	全体で * +4%
フィンランド	-8% * 0%

* EC内での配分

CO2)が導入されている。

②デンマーク



欧州連合(EU)では、2008年から2012年の間に1990年に比べ8%の温室効果ガスを削減することとしているが、ヨーロッパの中でもとりわけ環境に関心が高く、10年前に環境税(ここではCO2税)を導入した北欧四カ国の実情を調査する機会を得たので、その概略を報告する。

①ノルウェー

サウジアラビア、旧ソ連に次ぐ世界第3位の石油輸出国であるが、電気の99%が水力でまかなわれている。しかも、安価で豊富な電力を背景に、暖房のほとんどを電気に頼っており、1人当たりの電力消費は群を抜いて多い。

こうした事情からエネルギー消費の割にCO2排出が少ない。しかし、石油採掘に伴うCO2が全体の23%を占めており、産出量の増加に伴うCO2排出増加が問題となっている。このため、油田で燃焼されるガスを課税対象にCO2税(約3600円/トン



石油石炭による火力発電が中心のデンマークでは、激論の末、1985年に原子力を放棄し、新たな電力源として風力発電に重点を置いてきた。

1998年までに約5200基、150万kW(国内消費の9%)の風力発電が稼働しており、さらに2030年までに海上で400万kWを増設し、電力の30%をまかなう計画である。

また、発電の廃熱を地域暖房などに利用するコージェネレーションの推進や省エネルギーを誘導する税制の導入等によって、1998年には1988年に比べ8%のCO2削減を実現している。

③スウェーデン

日本と同様に石油資源を持たないスウェーデンでは、1970年以降、石油代替を目標に、エネルギー源を電気やバイオマスに転換させるとともに、電力源を原子力と水力(99%)にシフトさせてきた。

また、1970年以降、エネルギー消費量は横ばいのまま、コージェネレーション、バイオマスの普及等によって、エネルギーの石油依存度を77%から43%へ下げている。

この結果、1人当たりのエネルギー消費量は日本の1.4倍にもかかわらず、CO2排出量は約7割にとどまっている。

④フィンランド

ここ20年間でGDPの伸びが約60%に対し、CO2排出量は3%(1990年比1%)の増加にとどめている。

CO2削減のため、1990年に世界ではじめて導入された炭素税に加えて、1982年に設置された原子力発電所(全電力の31%)、木材等によるバイオマス発電(全電力の21%)、コージェネレーション(約80%の地域)などが推進されている。(T)

デンマークのエネルギー政策

「Energy21」

【2005年目標】

CO2削減 … 1988年比20%削減

【2030年目標】

CO2削減 … 1990年比50%削減

エネルギー消費 … 1994年比17%

削減

再生可能エネルギー … 全体の35%

1998年の実績

熱供給地域 … 51%(1988年30%)

コージェネレーション比率 … 54%(同19%)

CO2削減 … 1988年比8%削減

読者の窓

- 環境にやさしい生活に対応できるよう、生ごみ処理機などを購入し、役立てています。最初は面倒だったけど、今は生ごみの量が減ってラクチンです。(三国町 会社員 女)
- 「みんなのかんきょう」は、今回の特集「新エネルギーを考える」や、前回の「恐竜の絶滅を考える」など、知らなかったことをわかりやすく記事にされていて、興味深く読ませていただいています。環境ふくい推進協議会会員にしか配られていないのは、もったいないと思います。(武生市 主婦 女)
- 「新エネルギーを考える」を読んで、環境にやさしいエネルギーがいろいろとあることを知りましたが、個人の自宅でエネルギーを得る効率的な方法が、発見・発明されると嬉しいです。(福井市 会社員 女)
- 年々エネルギーの需要は増大しています。地球温暖化に伴い、今自然エネルギーが見直されています。しかし、風力などのエネルギーは、安定したエネルギー確保ができません。安定したエネルギー確保のためにも原子力エネルギーに頼らなければならないことに残念な思いがします。来年からは21世紀ですので、私たち1人1人が省エネに努めていく必要があると思います。(福井市 無職 男)
- はじめて手にしましたが、『あれ、紙がちがうな』と感じました。ケナフ用紙ですか、環境にやさしいですね。(上志比村 公務員 女)

企業研修会報告

『これからのリスクコミュニケーション』

去る、平成12年11月17日(金)、福井県生活学習館(福井市下六条町)において、当協議会主催の企業研修会を行いました。

東京から旭硝子株式会社 機能化学品事業本部 品質・環境安全部の大蔵幸男さんを講師に招いて、「これからのリスクコミュニケーション」と題し、1時間半にわたり講演いただきました。

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(PRTR法)の解説を含め、化学物質を取り扱う上でのリスク管理や住民とのコミュニケーションのあり方、情報公開の仕方など、具体的な事例を折り混ぜながら、わかりやすく講演されました。
参加した企業会員のみなさんは、時折メモをとりながら熱心に聴講し、講演終了後には、参加者から多くの質問が寄せられました。

『ふくい地球温暖化防止フォーラム2000』（ふくい環境シンポジウム） ～みんなで行動！ふくいの未来、地球の未来のために～

平成12年12月9日(土)・10日(日)の2日間にわたり、県と共催で、『ふくい地球温暖化防止フォーラム2000』を開催しました。

9日(土)は、福井市民福祉会館で、「異常気象と地球温暖化」と題したお天気キャスターの森田正光さんの講演のあと、「温暖化防止“今”私たちにできること」をテーマとして、川平浩二福井県立大学教授のコーディネートのもとシンポジウムを開催しました。

また、翌日の10日(日)には、福井県民会館で環境ミュージカル人形劇「飛べ！ドードー」を午前と午後の2回にわたり上演しました。

将来を担っていく子供たち、そしてその保護者の方たちに、地球温暖化という問題の重大さ、地球環境を守っていくことの大切さを、人形劇を通して感じ取っていただくことができました。



福井エコ・カレッジ参加者募集

環境ふくい推進協議会では、地域における環境保全活動等の中心となる人材の育成およびネットワークづくりを支援するため、ふくいエコ・カレッジを開催します。

講師とのディスカッションの時間を十分にとりたいと思いますので、ふるって御参加ください。

第1回

日時 平成13年2月27日(火) 19:00～20:45

場所 福井県国際交流会館 第1会議室
(福井市宝永3丁目1-1)

テーマ 環境問題と私たちの役割
(多様化した環境問題全般と私たちの関わりについて)

講師 久野 武 氏(関西学院大学教授)

定員 30名

第2回

日時 平成13年3月28日(水) 19:00～20:45

場所 福井県国際交流会館 第1会議室
(福井市宝永3丁目1-1)

テーマ 野生生物と私たち
(野生生物保護や自然環境保全に関する実践活動のあり方)

講師 林 武雄 氏(自然塾「きびたき自然の会」代表)

定員 30名

第1回・第2回共通

対象者 環境保全に関する実践活動を行っている人または関心のある人

受講料 環境ふくい推進協議会会員は無料
会員以外は第1回・第2回それぞれ500円

その他 参加申込みをされた方は、当日、開始時間の5分前までに会場に集合し、受付を済ませてください。

申込み方法

- ◎希望する回の5日前までに、環境ふくい推進協議会事務局へ電話で申し込んでください。**定員になり次第締め切ります。**
- ◎申込みの際に、氏名・住所・電話番号・所属する団体(なければ不要)、また、当協議会の会員かどうかをお知らせください。

申込み先

環境ふくい推進協議会事務局(福井県福祉環境部環境政策課内)

電話:0776-20-0301(直通)

※ 会場となる国際交流会館には十分な駐車スペースがありませんので、地球環境保全のためにもできるだけ公共交通機関を御利用ください。

環境カレンダーを配布しました

昨年末、会員の皆様に環境カレンダーをお配りしました。

見たり使ったりしての意見や感想などを事務局までお寄せください。

環境ふくい推進協議会に入会しませんか

環境ふくい推進協議会では、随時会員を募集しています。

環境問題に関心のある方、本紙『みんなのかんきょう』を毎月読みたい方、当協議会主催の講演等の情報を知りたい方は、ぜひ御入会ください。

《年会費》

個人会員:500円 企業会員:1口 10,000円(何口でも可) 団体会員:無料

《申込み先》

環境ふくい推進協議会事務局(福井県環境政策課内) TEL 0776-20-0301(直通)

編集

◇ 暖冬続きで雪の少ない冬になれてしまったため、今年のように雪が降り続くと、積雪量の多さに

後記

驚いてしまいます。でも、自分の子供の頃は、毎年こういう冬を過ごしていたなあと思い起こすと、温暖化は確実に進んでいるとあらためて実感します。(E)